長洲町立長洲小学校　校長便り　№45

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和4年10月31日(月)

社会や企業が求める人材

以前、新聞に県内企業の入社式が取り上げられていました。「自ら考え行動を」、「学歴より『人間力』」という言葉が目を引きました。新入社員に求めることとして「人間力」を挙げてあったことには、私自身大いに興味があります。記事をよく読んでみると、新卒者採用で重視することの1位は「コミュニケーション能力」でした、以下「協調性」「積極性」「チャレンジ精神」「責任感」「誠実性」「柔軟性」と続いていました。誠に興味深いですね。と言うのは、学習指導要領と求めることが整合しているからなのです。

長洲小学校は学習指導要領が求めることを学校経営に位置付けています。学習指導要領が求めるものとして、「地域の大人など多様な他者と協働する力」、「自ら課題に取り組み、最適解を見出す力」、「学びや経験を活かし、地域を支える力」等が挙げられていますが、本校ではその実現のために、経営方針の中に具体的に位置づけています。これは、社会や企業が求めている人材育成を長洲小学校が積極的に行っているということです。キーワードは「主体性」と「協働性」です。私たち教師にしても然りです。私自身、校長として子供達も先生方の新しい取組や挑戦に対しては寛容でありたいと考えています。主体的に課題解決、学校をより良くするための挑戦が、長洲小学校を更に魅力的なものにしていくのです。これほど楽しいことはありませんね。保護者の皆様、子供達の将来は皆様に直接影響を与えることになります。過保護にならぬよう、多くのことをお子様の主体性に任せてみては如何でしょう。

経験則②「言動」

今日は「言動（言葉と行動、立ち居振る舞い）」について書いてみましょう。言動は相手に対する印象を左右します。低学年ではまだまだ語彙数が少なく、私たち大人との会話では意を尽くせない場合が多いですね。少しずつ語彙を獲得して、正しく論理的に相手に伝える術を身に付けていくのでしょう。そう考えると低学年の先生方の使命の一つと言えるでしょう。でも、この低学年の言動が5年生や6年生で展開されていたらどうでしょう。そう言えば、朝の登校指導中や職員室での子供達との会話の中で、こんなことがあります。明らかに子供達に非がある場合、私達教師はその場で指導をします。指導はタイムリーなのが最も効果的だからです。でも、その指導を受けている子供達の言動について、たまに閉口する時があります。想像できますでしょうか、口を尖らせ不貞腐れた表情です。ご家庭でもありませんでしょうか、「駄々っ子」の表情です。現代においてはこれが結構多いようです。高学年というと、思春期の入り口で保護者としての接し方や担任としての接し方も難しい時期ではあります。しかし、それを放っておくと近い将来に影響が出ます。受験等が最も近い将来と言えるでしょうか。変化の激しい社会になったとはいえ、生身の人間同士のコミュニケーションは基本中の基本です。これができちんとできるということが、大人への第一歩と言えるような気がします。多少の「ヤンチャ」はあっても良いですが、因果応報という言葉を忘れないで、将来の自分を見つめた行動をして欲しいものです。先ずは自分の言動の見直しを。

シリーズ「自分を語る」＃45

嘉島西小3年目、いよいよ仕上げの年。縁あって持ち上がりで6年生を担任させて頂くこととなり、私は卒業をゴールとして、子供達にどのような短期目標を設定していくかを考えました。その最も大きなものが「42．195㎞ナイトハイク」でした。この行事は、私が最後の担任をさせて頂いた平成23年度まで続き、主幹教諭時代は部活の行事として、教頭校長時代はPTA行事として取り組むこととなります。この年は平成7年度ですから、歩く行事は27年間続いてことになります。しかし、新しいことへのチャレンジには相当のエネルギーが必要になることは自明で、嘉島西小学校3年目の4月から6月までの間は、42．195㎞ナイトハイク実施に必要な情報収集を私1人で行うことになっていきます。

当時、私澤田、独身だったこともあって、とにかく24時間営業で学校中心の生活を送っていました。そんな中、後の活動へと繋がっていく「42．195㎞ナイトハイク」の基礎をつくった1年でした。（嘉島西では、私的にも色々あって激動の3年となりましたが、内容があまり「お便り向き」ではないので話せません。悪しからず。）前述の通り、単純に長い距離を歩くこの行事は、平成23年度まで続き、それ以降も形を変えながら続いていった行事です。しかしながら、初回この行事を提案した時は、乗り越えるべき壁がありました。保護者や学校職員であれば当然心配する「交通安全面」「健康・体力面」「サポート面」等です。また、校長先生からは「目的」や「子供への影響」について聞かれました。私はこの様なことを全てクリアするために、実際に歩いてみることにしました。

先ず始めに、コース選定をします。この頃は、安全面への配慮などと言いながら、自分1人しか歩かないので、地図を使って適当にコースを決めていました。その後、自動車で実測して距離が確定してから歩き始めます。この時の実際のコースは、JR三角駅をスタートして、宇土半島の北側を経由して国道3号線に入り、自宅のある熊本市北区までです。実測で44㎞位ありました。自分で歩きながら、時系列で体の変化（痛みや疲労とその部位）、気持ちの変化（特にモチベーション）をメモしていきます。1人で歩く分ペースも自分に合わせることができますので、客観的な情報とは言えませんが、10時間かけて歩いた詳細な情報を基に計画を立て、校長先生の許可を得ました。この時ばかりは「身を粉にして」という感じでしたのでとても嬉しかったことを覚えています。

さて、校長先生の許可は得たものの、それだけではだめです。次に了解を得なければならないのは保護者の皆様でした。初めてこの話をした時の保護者の皆様の反応は先ず、「驚き」と「なぜ?」というものでした。当然と言えば当然で、マラソンランナーでもあるまいし、なぜ42．195㎞歩く必要があるのと思うのが普通でした。しかも、初めての経験なので私の心の中にも明確な戦略が無く、行事実施後に現れる子供達の心身の変化ははっきりしていなかったからです。そんな中、私を後押ししてくれたのは担任させて頂いた学級の子供達でした。学級の中で、私の想像でしかないナイトハイクの光景を、目を輝かせながら聞いている子供達は、日に日にナイトハイクへの情熱が高まっていきました。夜の道路を友達と話しながら楽しく歩く光景を想像し、悪いイメージは持たない子供達でした。（恩田陸さんの「夜のピクニック」という本を読むと、ナイトハイクのイメージが湧きますよ。）いよいよ6月末、実施計画と参加申込書を子供達に配付しました。

（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）